

平成 27 年 4 月に行われた全国学力・学習状況調査について、市では市教育研究会の協力のもと検討委員会を立ち上げ、結果の分析を通して「平成 27 年度笠間市の現状（成果と課題）」、「平成 27 年度授業改善プラン」、「平成 27 年度学力状況における課題解決のための調査問題」の 3 つの資料を作成いたしました。検討委員会での分析結果から明らかになった学力状況における課題の解決を目指し、学習指導に対する PDCA 検証・改善サイクルを確立するため、本資料の活用をお願いいたします。

つきましては、以下に示した「授業改善プラン」実施上の留意点をご参照いただき、国語科、算数・数学科、理科における指導の工夫・改善にお役立て下さい。

国語科授業改善プラン

小・中学校とも共通して「書くこと」の領域で課題が見られました。特に「図や資料から読み取った内容について、自分の考えを書くこと」について、低い正答率が見られました。また、小学校では「読むこと」において、引用などの表現の工夫に気付き、適切に表現を捉えることに課題がありました。中学校では、「言語事項」の品詞の性質や特徴を見分け、単語の類別についての理解力が不足していました。

そこで、次の点に留意しながら「授業改善プラン」を実施願います。

- ①（小 5）条件に応じて文を書く学習課題を取り上げ、資料から引用して文を書く活動を通して、「自分の考えたことを伝えるように書く力を育成する。
- ②（小 6）書き手が述べている内容や要旨、構成や記述の仕方などを捉え、文章を効果的に読むことを通じて、自分の考えが伝わるように書く力を育成する。
- ③（中 2・3）単語が自立語と付属語に大別され、いくつかの品詞に分類されることを確認することで、それぞれの働きに気付かせ、特徴やきまりについて理解する力を育成する。

算数・数学科授業改善プラン

小・中学校ともに、各領域で課題と考えられる内容がありましたが、特に「数学的な見方や考え方を図、式、言葉で表現する」問題において正答率の低い問題が目立ちました。また、小学校では割合についての理解や、図形問題における数学的な考え方の説明に課題がありました。中学校では、文字を用いた証明の意味理解や、関数の変域理解及び関数関係についての数学的思考の説明に課題がありました。

そこで、次の点に留意しながら「授業改善プラン」を実施願います。

- ①（小 5）数直線を活用し、「基準量」「比較量」「割合」の関係を捉えることができるようにし、「割合」についての理解を深める。
- ②（小 6）「拡大図・縮図」の学習で、「同じ形である」または「同じ形ではない」理由を記述説明する学習を通して、数学的な考え方を筋道立てて説明（表現）できる力を育成する。
- ③（中 2）図形の性質を説明する事例を検討する学習を通して、証明の必要性や文字を用いて考え方を説明することの意味理解を深める。
- ④（中 3）関数 $y = ax^2$ のグラフを観察し、 x の変域に対応する y の変域を x 軸→グラフ→ y 軸と順次なぞる学習を通して、関数の変域に対する理解を深める。

理科授業改善プラン

小・中学校で、以下の領域で課題が見られました。エネルギーではグラフを基に考察して分析した内容を記述する問題。粒子では思考力を問う発展的問題。生物では植物の栽培場所について、日光と成長を関連付ける問題。地学では月の方位を捉えながら、他の情報と関連付けて観察する問題です。中学校では、化学で溶解度の数値から実験結果を分析し、溶け方の違いを認識する問題。地学では雲のでき方について、気温の変化と湿度、水蒸気量などを関連付けて正しく説明する問題です。

そこで、次の点に留意しながら「授業改善プラン」を実施願います。

- ①（小 5）日常生活の一場面において複数の自然現象を見出し、それらを関連付けて考え、表現する力を育成する。
- ②（小 6）条件制御を明確にし、表・グラフを活用する活動を通して、科学的な思考力・表現力を育成する。
- ③（中 2）雲のでき方について仮説を立てて検証実験を行う活動を通して、気温の変化と水蒸気量の相互の関係についての理解へつなげるとともに、予想を検証する力を育成する。
- ④（中 3）実験結果を予想して仮説を設定する活動を通して、思考力・表現力を育成する。